

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年 5月21日現在

機関番号：82403

研究種目：基盤研究B

研究期間：平成22年度～平成24年度

課題番号：22310165

研究課題名（和文）

女性のキャリア形成に関する実証的・実践的研究－複合キャリア形成過程とキャリア学習

研究課題名（英文）

“Empirical and practical research on women’s career development – complex career development process and career learning”

研究代表者

神田道子（国立女性教育会館）

研究者番号：70058030

研究成果の概要（和文）：

本研究は、女性のキャリア形成過程に関して、教育社会学、発達心理学、社会教育学、歴史社会学等の分野から総合的に分析し、その研究結果に基づき、地域づくりを推進する社会的人材を育成する学習プログラムの開発を行うことを目的とする。

結果、複合キャリアには、融合型（NPO活動のように社会活動が職業になっている場合）と並行型（職業活動とボランティア活動など同時進行で行なっている場合）があることが明らかになった。また、移行のパターンについては、ある時点でみた場合は特定できるが、時系列でみた場合は特定できないことがわかった。

研究成果の概要（英文）：

This research aims to carry out comprehensive analysis of women’s career building process from various perspective of educational sociology, developmental psychology, sociological education, social engineering, historical sociology, and so other approaches, and aims to develop a learning program for people who contribute in promoting community building.

It has been made clear that a complex career takes the form of either a fused career (whereby an occupation consists of social activities, as in the case of NPO activities) or a parallel career (whereby activities of work and volunteering, etc. are pursued side by side). Another finding is that while transition patterns are identifiable if observed at a certain point in time, they cannot be identified through a chronological observation.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
平成22年度	5,500,000	1,650,000	7,150,000
平成23年度	3,185,000	1,050,000	4,235,000
平成24年度	3,500,000	1,050,000	4,550,000
年度			
年度			
総計	12,185,000	3,750,000	15,935,000

研究分野：ジェンダー

科研費の分科・細目：社会教育

キーワード：複合キャリア、社会活動キャリア、職業キャリア、プログラム開発、地域人材育成、キャリア形成、中断再就職、NPO活動

1. 研究開始当初の背景

高度技術革新、経済の低成長、人口構成の変化など、社会環境の急激な変化は女性の生

き方に大きな変化をもたらし、成人女性のキャリア発達とその支援方策の研究が必要とされている。

この認識は研究者ばかりでなく、政策担当者にも共有されている。文部科学省は、平成14年、「女性の多様なキャリアを支援するための懇談会」を発足させ、女性の柔軟なキャリア設計を「主として生涯学習の面から支援する方策」の検討を開始した。平成15年、同懇談会の報告書が提示した「多様なキャリア」という考え方は、従来の職業経歴中心のキャリア概念を転換し、社会的な活動歴など、生活のあらゆる領域・段階での経験を通して獲得される包括的な「力・ポテンシャル」を広義のキャリアとして捉えた点で画期的である。このような新しいキャリア概念にたち女性の生き方を検討し、支援する必要がある。

2. 研究の目的

本研究は、女性のキャリア形成過程に関して、教育社会学、発達心理学、社会教育学、社会工学、歴史社会学等の分野から総合的に分析し、その研究結果に基づき、地域づくりを推進する社会的人材を育成する学習プログラムの開発をおこなうことを目的とする実証的、実践的研究である。

本研究では、女性のキャリアを複合キャリア（職業キャリアと社会活動キャリアの複合）としてとらえ、生涯発達という個人的側面と社会形成という社会的側面の両面からその形成過程を解明する。さらに、その結果を活用し、キャリア形成学習プログラムを開発する。それによって、地域づくりを男女共同参画によって推進する人材の育成に貢献することを目的とする。

3. 研究の方法

次の2つの研究課題に沿って実施した。

研究課題（1）複合キャリアの形成過程に関する実証的研究

①地域人材として活躍し、社会活動キャリアを実践している女性、②NPO活動など、複合キャリアを実践している事例、③明治・大正期以降、複合キャリアを実践した先駆的女性の3類型を対象とし、質問紙調査、インタビュー調査、文献資料研究を組み合わせ、「複合キャリア」の実態と形成要因を明らかにする。

研究課題（2）キャリア学習プログラム開発に関する実践的研究

上記の研究によって得られた知見を活かし、①地域づくり人材育成プログラム、②キャリア形成支援プログラムを作成する。いくつかの協力機関で試験的に実施し、これを評価して、実際に女性センターや大学で活用できる、有効性の高いプログラムにまとめる。

4. 研究成果

上記の研究方法に沿って整理する。

（1）①社会活動キャリアを中心としたアンケート調査の実施

全国375の女性関連施設に調査票を2部ずつ送付し、地域活動で活躍する人材2名に依頼、郵送にて返送、750票中433票回収した（回収率57.7%）。地域人材の形成過程について調査した。【平成22年度】

平成22年度に実施した社会活動キャリアを中心としたアンケート調査の結果から、年齢・活動分野・地域バランスなどを考慮して、17人を選定。ヒアリング調査を実施した。ヒアリングに際しては、研修の際の事例分析に活用しやすいように、学校卒業時から時系列に職業キャリア・社会活動キャリアのプロセスを跡づけた。この調査の分析から、次のようなキャリアの移行パターンを確認した。a 社会活動がそのまま職業になっているNPOなどの場合は、「融合型」、b 職業活動とボランティアなどを同時に行っている場合は、「並行型」とする。この2パターンを明らかにした。【平成23年度】

②NPO活動を中心としたヒアリング調査の実施

活動分野・地域バランスなどを考慮した上で、全国25団体のNPO法人の女性代表へのヒアリング調査を実施した。複合キャリアの形成過程について調査し、参考資料を作成した。【平成22年度】

③先駆的女性へのヒアリング調査・文献調査の実施

複合キャリアを実践した先駆的女性3人へのヒアリング調査と資料収集を行った。【平成22年度】

戦後の先駆的女性のキャリアとして、原ひろこ・森山真弓・田中里子・縫田暉子を対象にヒアリング調査を実施した。田中里子については論文にまとめ（研究成果参照）縫田暉子については整理シート作成。【平成23年度】

（2）本調査研究をもとに平成24年度に実験的にプログラムを実施するために、対象者・実施施設・プログラム案などについての議論を重ねた。その結果、中高年女性を対象にした地域人材育成プログラム、短大生・大学生を対象にしたキャリア形成プログラムを実施することを決定した。【平成23年度】

平成24年度には、以下の実験プログラムを実施した。

a. 女性のキャリア形成支援セミナー：茨城県女性プラザ「レイクエコー」（10月から11月の5回講座中3回担当）にて「子育て中の女性、NPOやコミュニティ・ビジネスに関心のあ

る女性、地域活動・ボランティア活動を行っている女性」を対象に実施。中断再就職の一環としてNPO活動を位置づけている。これは、人材育成プログラムにあたる。

b. 女子学生のためのキャリア形成講座：国立女性教育会館（9月5～7日）にて埼玉県内3短期大学合同キャリア教育として実施。関係力の育成や多様性を学ぶことを目的にした。これは、キャリア形成支援プログラムに位置づく。

c. 4年制女子大学生対象キャリア形成支援セミナー：都内会場（11月10日）にて4大学合同で実施。b.と同様、キャリア形成支援のプログラムになるが、b. c.ともに長期的視野でキャリアをとらえることに重点をおいている。
【平成24年度】

最終年度の成果物として、以下の2点を作成した。

・『社会参画と女性のキャリア形成事例集』：ヒアリング調査をした18人の活動までのプロセスをキャリア形成の視点から分析した。中高年・大学生を対象にしたキャリア形成講座のテキストとして作成。

・報告書：3年間の研究成果として「複合キャリア」の類型化、複合キャリアの先駆的事例の分析、NPO活動の事例分析、プログラム開発のための実験プログラム、先進的プログラム調査としての韓国調査などの結果をまとめた報告書を作成した。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計15件）

- ① 神田道子「男女共同参画時代の女性人材育成—社会的背景と学習課題—」『NWEC 実践研究』査読無、第1号、2011、6-19
- ② 中野洋恵「地域における女性人材を育てる学習」『NWEC 実践研究』査読無、第1号、2011、38-48
- ③ 森未知「パイオニア女性に学ぶ」『NWEC 実践研究』査読無、第1号、2011、107-117
- ④ 神田道子「複合キャリアとは何か」『NWEC 実践研究』査読無、第2号、2012、4-16
- ⑤ 亀田温子「女性校長の語るキャリア形成—「教員になる」から「キャリアをつくる」へ—」『NWEC 実践研究』査読無、第2号、2012、17-33
- ⑥ 田中雅文「女性の複合キャリアにおける学習の意味—NPO リーダーの事例分析を通

して—」『NWEC 実践研究』査読無、第2号、2012、36-50

- ⑦ 上村千賀子「奥むめおにみる複合キャリアの形成過程—戦前の活動を中心として—」『NWEC 実践研究』査読無、第2号、2012、51-66
- ⑧ 真橋美智子「田中里子にみる複合キャリアの形成過程」『NWEC 実践研究』査読無、第2号、2012、67-82
- ⑨ 野依智子「女性のNPO・起業活動と複合キャリア」『NWEC 実践研究』査読無、第2号、2012、83-98
- ⑩ 中野洋恵「女子学生のためのキャリア形成講座—平成23年度埼玉県私立短期大学協会・国立女性教育会館連携キャリア教育プログラム」『NWEC 実践研究』査読無、第2号、2012、114-128
- ⑪ 引間紀江・佐國勝「男女共同参画の視点に立った多様なキャリア形成支援研修」『NWEC 実践研究』査読無、第2号、2012、129-144
- ⑫ 神田道子「課題解決型学習とりあげる意味」『NWEC 実践研究』査読無、第3号、2013、5-8
- ⑬ 中野洋恵「課題解決型実践的活動に結びつく学習プログラム」『NWEC 実践研究』査読無、第3号、2013、27-41
- ⑭ 田中雅文「課題解決型学習の展開」『NWEC 実践研究』査読無、第3号、2013、10-26
- ⑮ 野依智子「NPO・市民活動と社会教育」『現代の社会教育と生涯学習』査読無、2013、147-162

〔学会発表〕（計1件）

- ① 野依智子・飯島絵理・越智方美・渡辺美穂「NPO 活動を通じた女性のキャリア形成の課題と可能性」日本NPO学会、2013.3.16、東洋大学

〔図書〕（計 件）

該当なし

〔産業財産権〕

○出願状況（計 件）

該当なし

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

出願年月日：

国内外の別：

○取得状況（計 件）

該当なし

名称：

発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

[その他]
ホームページ等
<http://www.nwec.jp/jp/publish/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

神田道子 (国立女性教育会館)
研究者番号：70058030

(2) 研究分担者

飯島絵理 (国立女性教育会館)
研究者番号：70415355

市村櫻子 (国立女性教育会館)
研究者番号：00587305

上村千賀子 (国立女性教育会館)
研究者番号：70259985

越智方美 (国立女性教育会館)
研究者番号：70524403

中野洋恵 (国立女性教育会館)
研究者番号：60155786

西山恵美子 (国立女性教育会館)
研究者番号：80415356

野依智子 (国立女性教育会館)
研究者番号：40467882

森未知 (国立女性教育会館)
研究者番号：20415350

渡辺美穂 (国立女性教育会館)
研究者番号：40415352

(3) 連携研究者

渡辺三枝子 (立教大学)
研究者番号：20230948

田中雅文 (日本女子大学)
研究者番号：10217078

廣瀬隆人 (宇都宮大学)
研究者番号：30323322

大槻奈巳 (聖心女子大学)
研究者番号：30356133

真橋美智子 (日本女子大学)
研究者番号：40060694

亀田温子 (十文字学園女子大学)
研究者番号：10149164